

## 人間文化研究所「human & social サイエンス・カフェ」

人間文化研究所長に就任して1ヶ月が経過した。3年前に設立された研究所の持続的発展をめざして、とにかく継続事業を持続させることに力を注いでいる。昨年6月から、栄の丸善4階カフェにて「サイエンス・カフェ」を第3

日曜日午後3時から開催している。今年度のトップバッターを担当し、「公共政策と財政とまちづくり」とい



うテーマで話をした。

\*写真は受付などを手伝ってもらったNさんが携帯で撮影

日頃の教室での講義とは勝手が違い、最初はカフェの雰囲気ですこし戸惑った。自己紹介をかねて研究の歩みを話しているうちに、いつもの「調子」がでてきた。宮本憲一『公共政策のすすめ』を使って日本型公共政策について、公共事業や医療・福祉などから問題提起した。そして人口減少時代のまちづくりについて、名古屋を例にして「持続可能性」と関わらせて課題を示した。

丸善は広小路通りにある。それで「広小路ルネサンス」事業、例の道路問題で話を締めくくった。ちょうど1時間の話のあと、参加者との質疑を50分ほど行った。話題は広小路問題に集中して、事業の進め方や意義などについて厳しい質問や意見がつついた。財政危機や医療福祉の切り詰めのなかで、行政の優先順位やまちづくりのプロセスについて意見が集中した。この模様については、当日参加した院生の感想を研究所サイトに掲載しているので参照されたい。

人間文化研究所では、名古屋都心での「サイエンス・カフェ」を今後も持続的に開催していく予定である。できるだけ事前予約して、ぜひご参加を。

(2008年5月4日 記)